

令和2年度 県南地区高等学校PTA連合会 研修会「新型コロナウイルス感染症対策の現状について」

開催日 令和2年11月19日(木)

会場 ビッグパレットふくしま(1F コンベンションホール)

県南地区高等学校PTA連合会では、例年この時期に多くの参加者を招き、研修会と専門委員会での各校の報告会を行ってきました。しかし今年度は新型コロナウイルス感染の拡大もあり、大幅に規模を縮小して開催することになりました。参加者は各校のPTA会長及び事務局1名に限定。メインの行事として講演を行うのみとなりました。

その講演者が、現在福島県の感染症対策アドバイザーとして活躍されている、福島県立医大の金光敬二先生でした。県の感染症対策の現状と、対策として私たちが何をしたらいいのか。基礎的でわかりやすい講演でした。講演内容を大まかにまとめてみましたので、保護者の方々も参考にさせていただけたらと思います。

(白河旭高校 渉外部 佐川博文)

演題「新型コロナウイルス感染症対策の現状について」

講師 金光敬二 (かねみつ けいじ) 公立大学法人 福島県立医科大学 感染制御学講座 教授 附属病院 感染制御部 部長 福島県感染症対策アドバイザー (2020年～)
--

1 感染症とは・・・微生物がヒトに侵入・増殖して、さまざまな**症状**を起こすこと。**ヒトからヒトへうつる**のが感染症

* 感染症を起こす原因になる微生物には、菌・細菌・ウイルスなどがある。

特にウイルスは小さく、電子顕微鏡でしか見えない小ささ(100nmぐらい)

** ヒトからヒトへうつる、という過程の中、私たちは「うつされた」という感覚になる

これが「**差別**」を生んでいる。(自粛警察とか・・・) **誰にでも感染リスクはある**ことを自覚

*** 法による強制はできない(上記の**差別**ともかわる) 正しく理解し、感染症を防ぐためにも**教育が重要**

2 新型コロナウイルスの疫学

(症状) 風邪やインフルエンザと共通(ふつうの風邪でも、発見済みのコロナウイルス原因のものが10%ぐらいある)

・・・発熱や鼻水、息切れや味覚障害などに特徴(判別は難しい)

最悪の場合、肺炎での死亡例もあるが、若い人の死亡率は低い(0%に近い)

高齢者は、感染リスクが大きい(重症化しやすい)

(感染者数) 秋から増加し、大きな波になっている

…日本の感染者数は10万人ほど(人口の1% 残り99%)

これから広まる可能性がある(ただ、致死率は低い)

県内では、現在郡山での感染者数が多い(原因は交通の便が良いためか?)

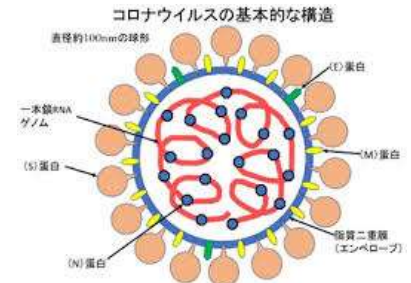
今後、感染増加にともなって全体に広まると考えられる

* コロナウイルスには、さまざまなものがある(代表は、SARSやMERS)
共通するものの一つに、エンベロープ(ウイルスが持つ、膜状の構造)を
持つことがある …これには、アルコール消毒が効く

** 日本など、アジアでの致死率が低いのは、原因がよくわかっていない

***若者の致死率が低いから、高齢者のだけに対策を絞る、というわけにはいかない

全体の感染者数を減らさないと、感染リスクは低下しない



3 COVID-19(新型コロナウイルス)の検査

検査体制は現在構築中(検査できる数は増加中)



検査方法 … 鼻腔拭い(医師などによる、鼻腔の奥からの採取)

感度の高い検査だが、くしゃみ等で検査する側に感染リスク拡大

鼻腔拭い(自分で鼻の中から採取)、唾液(自分で採取)

感度は低いが、それでも診断は可能

→こういう方法で採取した検体から、感染を確認する検査が **PCR検査**

* なぜ検査数が少ない? … 医大でもPCR検査機があるが、高価そして一度に検査できる数が少ない
機械で検査しても、結果が出るまで時間がかかる(数がこなせない)

** 全員、PCR検査すればいいのに! … PCR検査の結果は100%ではないから、やっていない
完全に陽性・陰性の判別はできない(検査しても、偽陽性・偽陰性が数%ある)

→ 感染の可能性が低い人は、除く / **きちんと診断して、本当に必要な人に検査する方がいい**
(微妙な結果が、かえって混乱をまねくことを防ぎたい)

4 感染伝播の阻止

新型コロナの感染 … 発症前および無症状の人からも、感染する可能性あり

(対策)

- ① 感染症対策 … ウイルスを撲滅 / 現在達成したのは天然痘だけ 実現は困難 治療薬なし
- ② 感染経路の遮断 … 飛沫(ひまつ)感染、接触感染、空気感染 すべてで対策が必要
- ③ 感受性をなくす … 予防接種(ワクチンの作成) まだ完成していない / 治す薬ではない

* どれだけウイルスが入ったら発症するのか？

まだ不明（当然、少ない方がリスクは小さい）

・・・ 大量に入ると、すぐ発症する 少ないと、潜伏期間が長くなる と考えられる

** どうやって遮断する？

コロナウイルスの感染は飛沫感染中心だが、エアロゾルによる感染の可能性もある

*** 基本的な対策

・ **室内の換気**（換気することで、空気中のウイルスをうすめる）

→教室なら、対角線上の窓を開けて換気するのが効果的

扇風機やサーキュレーターで空気を動かす方法もある

・ **消毒**（アルコールや次亜塩素酸ナトリウムによる消毒 効果は確認済み）

→いろいろなところに触った手で、鼻・口を触らない 必要なタイミングで、手を消毒

5 学校での感染対策

人が集まる場所は、クラスター化しやすい（大量発生源になりやすい）・・・ 学校はその典型

・ とにかく、学校にウイルスを持ち込まないこと

・・・ 普段の健康管理 / 無理せず、**休める環境**も必要（誰にでも感染リスクはある）

顔に合わせてマスクをする（隙間を作らない）

・ **ユニバーサル・ポリシー**（人ごみに出たらマスク）

・ コロナ症状かな？と思ったらどうする・・・ かかりつけ病院に相談（万が一に備え、電話で相談）

* 濃厚接触者の定義

この定義に当てはまらないようにする工夫が必要

★ 完全な対策は、現在は無理

リスクを下げる対策をとりましょう！！

